

資料2

平成30年3月1日 広島市文化交流会館

農業委員・農地利用最適化推進委員及び農業経営者合同研修会

「農地中間管理事業を活用して農地を集積。」

地域に愛される農業法人に！

岐阜県 本巣市農業委員会 農業委員

安藤 重治

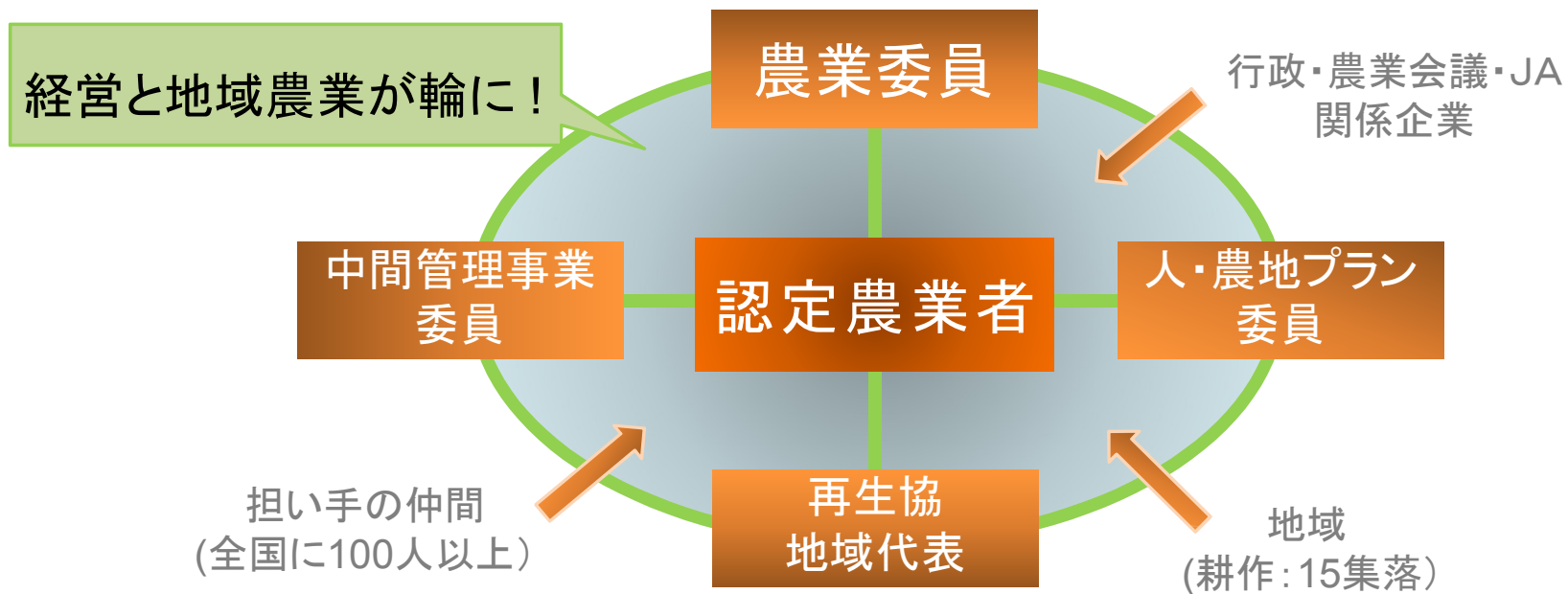
アグリード株式会社 代表取締役



商標登録第6016727号



現在の農業分野の主な役職(ほんの一部)



1. 本巣市水田農業担い手協議会 副会長
2. 岐阜県稲作経営者会議青年部 顧問
3. 本巣市農業委員(H29.7 1期目)
4. 本巣市人・農地プラン検討会委員
5. 本巣市農業再生協議会地域代表
6. 岐阜県農地中間管理事業推進協議会委員

会社概要〈アグリード株式会社〉



◇設立 平成 2 5 年 3 月 1 日

代表取締役	安藤 重治 (42)
専務取締役	安藤 功 (40)
工場長	河出 雄二 (42)
農場長	吉田 幸保 (40)

◇機構活用面積 約 1 1 0 ha

【地域水田の23%／担当エリアの30%】

主食用米 4 8 ha (10品種)

あきたこまち 2.3ha コシヒカリ 7.3ha ミルキークイーン 3ha ハツシモ(慣行) 4.1ha
あさひの夢 4.5ha ハツシモ(クリーン) 14.7 ha みつひかり 6.1ha 縁結び 0.6 ha
ちほみのり 0.4 ha 五百万石 0.6 ha たかやまもち 4.6ha

飼料用米34ha 小麦21ha 大豆7ha 加工野菜0.6ha 受託 1 0 ha

(二毛作含む)

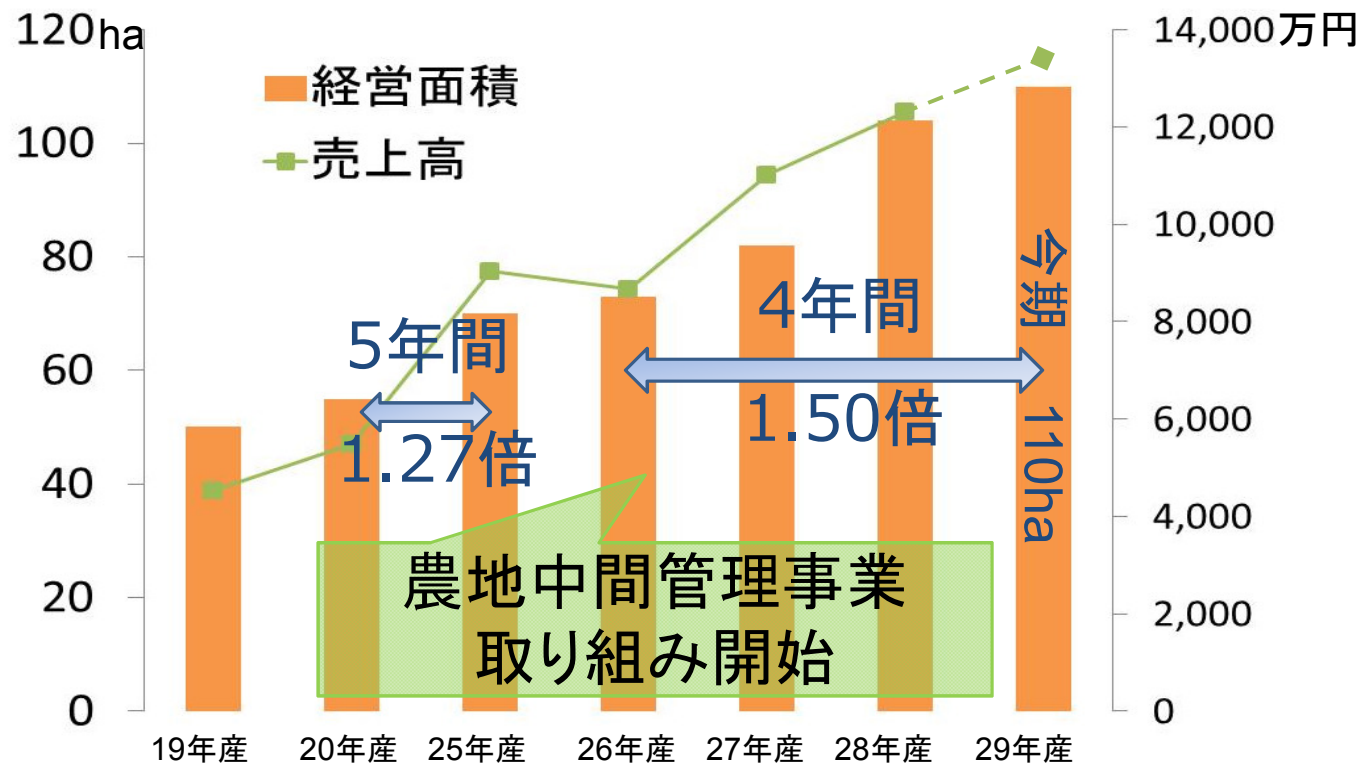
◇経営面積 約 1 2 0 ha

私を含め 4 名で作業



創設初年度から農地中間管理事業で地域の耕作効率化

平成	19年産 (19年12月期) 経営参画	20年産 (20年12月期)	25年産 (26年2月期) 法人化	26年産 (27年2月期)	27年産 (28年2月期)	28年産 (29年3月期)
経営面積(ha) (うち転作面積)	50 (4)	55 (12)	70 (29)	73 (34)	82 (46)	104 (59)
売上高(万円) 交付金含む	4,530	5,500	9,028	8,677	11,015	12,305
ポイント	水稻単作 レンゲ休耕	小麦 作付開始	加工切餅拡大	米価下落 中間管理事業	飼料用米 作付開始	大豆 作付開始



営農のこだわり

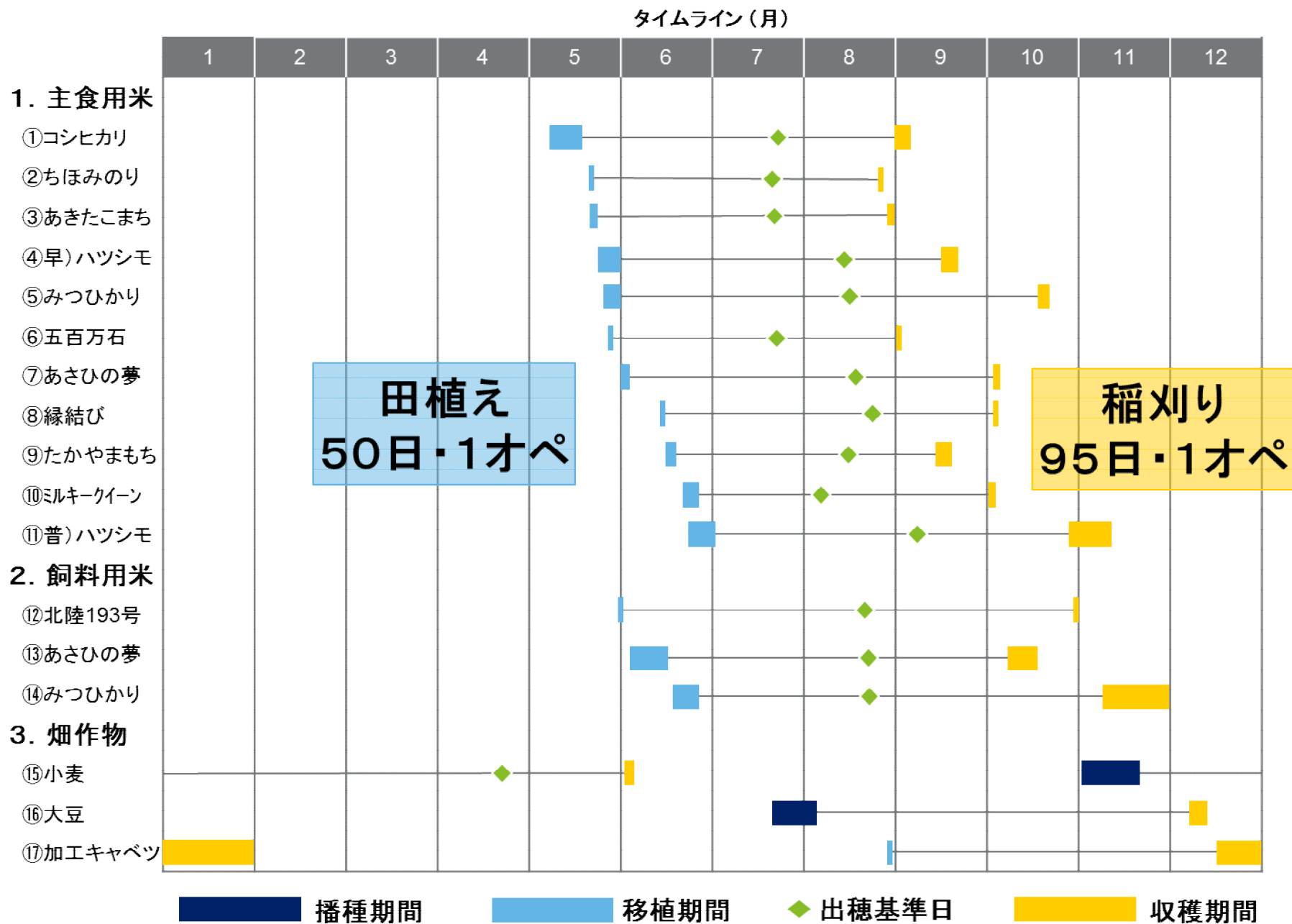
1. 作期分散による綿密な作業計画

2. 詳細な予算管理

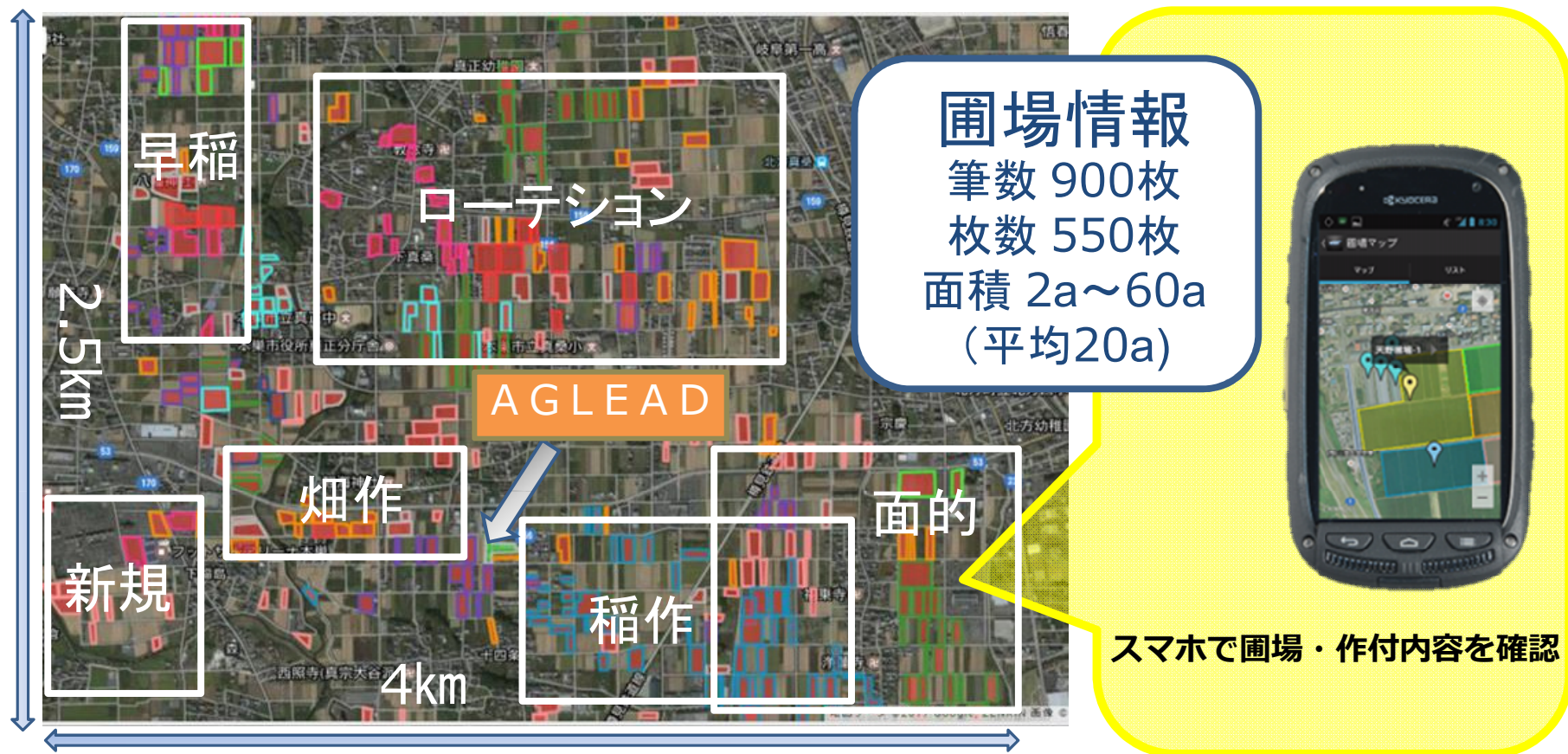
3. ICT活用(KSAS)



主食用米だけで10品種！人も機械も毎日稼働で最大限効率化



ICTで作業進捗を見える化！計画とのズレを常に修正



- ◎ 「見える化」 スマホ・PCから圃場の内容が一目でわかる。
- ◎ 「ノウハウの継承」 クラウドの情報共有により、新人の方にも伝達がスムーズにできる。（作業日誌）
- ◎ 「評価・分析」 機械と連動して食味・収量・タンパク値がわかる。

販売のこだわり

ほうじょう りん

1. オリジナルブランド米「豊穰の凜」を自社販売
2. 「秋の収穫祭」による新米の自社販売
3. JAぎふとの業務用米複数年契約
(新たに輸出・加工用米契約)
4. 学校給食用米



雇用のこだわり

1. 労働保険・社会保険の加入
2. 年3回の賞与支給・退職金の準備
3. 大型連休の導入
(有給・自社年間休日カレンダーの導入中)
4. 臨時雇用者のフレックスタイム制

平成35年までに達成する経営目標

目標	現在	平成35年
農地集積面積	1 1 0 ha	→ 1 5 0 ha
販売高 (交付金含まず)	6,372万円	→ 1 億円

早期達成のために

- ・ 農地中間管理事業で作業効率アップにつながる農地集積
- ・ 複数年契約米・輸出用米の拡大(需給) 700俵 → 2,000俵
- ・ ICTで更なるデータ蓄積による生産効率向上
- ・ 常時雇用者の新規雇用 常時雇用者2名 → 3名
- ・ GAPの実践による農場管理のレベルアップ
- ・ 複合経営・6次産業化(餅加工・日本酒)による多角化(新工場)

全国農業新聞

NATIONAL
AGRICULTURAL
NEWS

29年10月20日
(東海版)

【岐阜】本巣市で120畝を耕作するアグリード(株)を経営。農地中間管理事業を活用して集積を図り、主食用米・飼料用米・小麦・大豆・野菜・加工など、多角化により安定的な経営を目指している。

種前契約。本年度からはJAとの新たな取り組みとして、業務用米や特A銘柄の複数年契約にも取り組んでいる。今後は、輸出も視野に入れ、GAPの取得も目指す。これからの農業経営に

は、自らが事業者であることの自覚を持ち、経営者の視点で新たな挑戦をしていくことが求められる。当社では、経営理念や経営方針、「実行予算」を明確にし、社員全員で共有している。ICTを

12年には県稲作経営者会議青年部を立ち上げ、勉強会・研修会などを継続的に実施している。稲作経営は地域と共に在る。青年部会長として、

2018年産米から国の生産数量目標の配分がなくなり、生産者自身が需給調整をしなければならぬ時代となる。当社の約50畝・10品種の主食用米のほぼ全量が播

地域と共に在る稲作 仲間との成長が大事

県稲作経営者会議青年部会長・本巣市農業委員

安藤 重治



活用し集積したデータは、無駄のない作業体系の構築の基礎となっている。現場では、それらの数字を念頭に置きながら各自が日々作業に取り組ん

本年度の担い手表彰で農水大臣賞を受賞する。地域を愛し、地域に愛される農業法人として、若手稲作農家の目標となる経営を目指したい。

今を問う

全国農業新聞

29年12月1日
(全国版)

2017年度 全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞②

アグリード(株)(安藤重治代表、41)は、農地中間管理事業などを活用して110トンを集積。主食用米・飼料用米・小麦・大豆・野菜の生産に加工などを組み合わせた多角経営を基幹作業員4人で実践している。これが可能なのは、品目の作期を分散させて綿密な作業計画をたて機械や作業員がフル稼働しているためだ。

48粒の主食用米では、自社販売およびJAの播種前契約で岐阜県の主力品種「ハツシモ」をはじめ10品種を作付ける。2016年からは、ICTを導入し、圃場管理や作業情報などの生産管理方法をデータベース化した。作目や圃場ごとに目標数値を明確にし、生産にかけたコスト、収穫・

経営改善部門 岐阜・本巣市 アグリード(株)

機構など活用し集積 110トンで多角経営



地域農業の担い手として活躍するアグリードの作業員たち(左から2人目が安藤さん)

綿密な計画、機械・作業員フル稼働

販売の成績や収益などを従業員と共有し、経営体としての意識を高めている。また、次年度の収益を確実に確保するために欠かせないのが「実行予算書」だ。事業計画をはじめ、収入・支出を一枚のエクセルシートにまとめたもので、前職の建築業や不動産業での経験を取り入れた安藤さんのオリジナル。常に詳細な予

算管理ができ、財務強化につながっている。天候、政策など不安定要素が多いことから頻繁にデータの見直しが必要となるため、常に最新の情報を反映させ、社員一人一人が経営者と同じ視点を持って自ら考えて動き、作業の無駄をなくしている。

意見交換会や自主的勉強会では、政策や新規事業について、中長期的な視点で経営を成長させるか、関係機関と議論している。JAと連携する業務用米の複数年契約のスキーム構築に携わったり、会員の農場でGAPの外部評価を実施し、評価結果を共有するなど、改革期だからこそ仲間とともに歩み、成長することが

り組んでいる。休日制の導入や社会保険・退職金制度、年複数回ある手当の支給などを取り入れている。

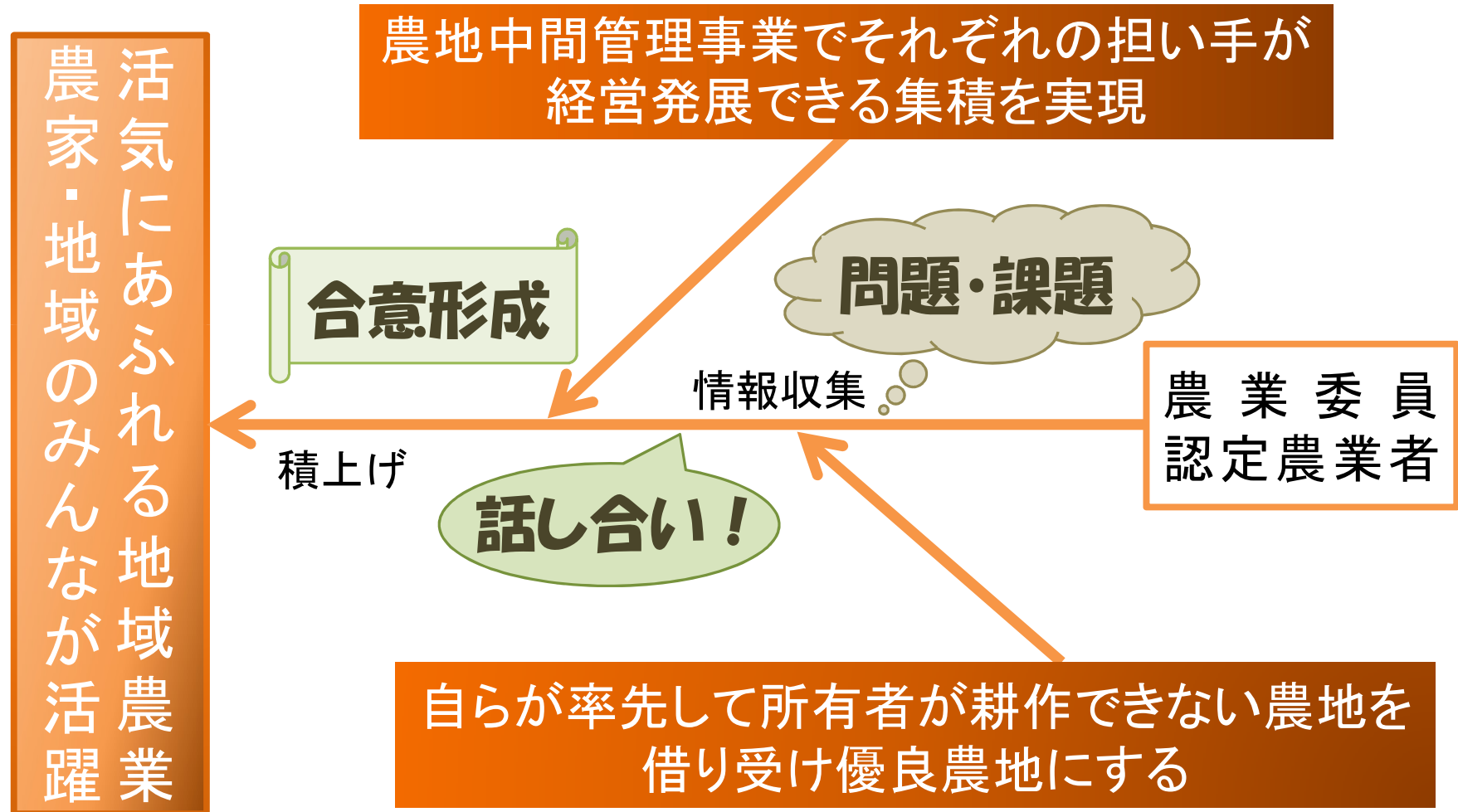
同世代の担い手農家で12年に岐阜県稲作経営者会議青年部を立ち上げ、現在会長職を務める。行政、JA、農業会議などの関係機関と

も連携しながら、経営者のための勉強会・研修会などを継続的に実施している。

大事だと考えている。また、地元小学生の田植え・稲刈り体験を指導したり、地域住民を対象とした「秋の収穫祭」を開催するなど、地域を大切にしている。いはいは人一倍強い。

「地域を愛し、地域に愛される農業法人として誰からも必要とされる若手稲作農家のリーダーになる」と意気込みを語る。

若い担い手の私が農業委員として 果たしたい使命



今...大切にしている想い

地域を愛し、地域に愛される農業法人として、誰からも必要とされる若手稲作農家のリーダーになる。

